

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

4/29号

第10節 ザスパクサツ群馬 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鎔造

4/29 13:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : ザスパクサツ群馬 2013 J2 9勝13分20敗 勝ち点42:第20位

群馬県リーグで活動していた『リエゾン草津』が母体。2002年から『ザスパ草津』として強化開始。関東リーグ2部時代に「Jリーグ加盟を標榜するクラブに対する優遇措置」を活用して地域リーグ決勝大会に参戦し優勝、JFL昇格。JFL1年目の2004年シーズンで3位の成績を収め、翌年からJ2。(昇格はJFL2位までだったが、2位のHondaFCと勝ち点・得失点差が同じだった)。同年の天皇杯ではJリーグ王者の横浜F・マリノスに勝ちベスト8。J2での最高成績は2008年と11年の9位。2013年からチーム名を「ザスパクサツ群馬」に変更。(吉田鎔造)

残念ながら4/20ホーム戦では栃木に、続く4/26アウェイの松本戦でも敗戦してしまったFC岐阜。松本戦では問題点を修正して試合内容も悪くなかったものの、これで2連敗となってしまった。ホーム戦では3連敗中だ。順位も17位に下がってしまったが、6位から11位が勝ち点14であり、まだまだ上位に返り咲くチャンスはある。そのためにも、今節はどうしても勝利して勝ち点3を得たいところだ。

さて、その今節の対戦相手は現在19位のザスパクサツ群馬。岐阜よりも下位のチームだが、その勝ち点差はわずかに1。油断してはいけないが、一方では確実に勝ちきりたい相手でもある。これまでの通算対戦成績は岐阜の4勝4分6敗、ホーム戦では2勝2分2敗。直前の対戦である昨年の9/15アウェイ戦では1-0と、2013年J2残留に大きな勝利を得たが、3/17のホーム戦ではシュート数で岐阜13本・群馬2本と押し込みながら、0-0のドローで終わっている。今年は是非とも、岐阜のゴールラッシュでスタジアムを沸かせて欲しいものだ。群馬はエースの#10平繁を怪我で欠いてから4連敗中、しかも前回敗戦の記憶もある。彼らも勝利を目指して貪欲に向かってくるだろう。中でもFW#9ダニエル・ロビーニョの能力は要注意だ。岐阜は守備の柱であるCB#35木谷公亮が前節の松本戦で負傷交替、中2日ということ考えると、代役には#5関田寛士または#15ヘニキが想定される。彼らが群馬の攻撃陣を押さえ切ることができれば、おのずと岐阜の勝利が見えてくるだろう。また、連敗やGW連戦のため、ラモス監督は選手起用の変更を示唆している。一方の群馬もスタメンや戦術の変更が想定される。チャンスを掴んだ選手には活躍してほしいし、相手の戦術にあわせた試合中の修正も必要だろう。ラモス監督の采配や、ベテラン選手の試合勘、そして若手選手の躍動が融合して結果を出すことを是非とも期待したい。

前節の松本戦から、JリーグはGW4連戦に入っている。岐阜も4/26アウェイ松本戦の後、中2日で今日4/29群馬戦、その後も中3日で“最後の国立”アウェイ東京V戦、そして中2日で5/6ホーム千葉戦という、僕らにとってはサッカー三昧ができるGWだが、選手たちにとっては地獄の強行日程だ。勝ち点を積み上げることが出来ればチームは流れに乗ることが出来るが、そうでないと疲労だけが溜まる結果になってしまう。またスタメン固定で乗り切れる日程でもなく、選手層の厚みも求められる、リーグ序盤の大きなヤマ場だ。まさに総力戦だが、その4連戦中、2戦が(現在は)岐阜より下位のチームだ。油断せず貪欲に勝利を目指し、しっかり結果を残したい。

アウェイでの敗戦しかも中2日では、選手たちは疲労も残っており、身体の切れも悪くなっているだろう。しかも、天候はいよいよの雨予報。ピッチの芝も重くなり、体力を消耗する“走力戦”になることも想定される。しかし、こんな状況だからこそ、僕らサポーターの力が必要だ。サッカーは体力を消耗するスポーツで有るが故に、非常にメンタル面も要求される。わずか1歩の差がゴールの差を、勝負の差を分ける。その一歩を生み出す強いメンタル、選手の重い身体を後押しする、大きな拍手や声援を僕らから、最後までピッチにしっかりと送り届けよう。(ささたく)

2014J2

■順位表■第9節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	27p	+24	28	4	H●
2	長崎	18p	+8	18	10	
3	磐田	17p	+8	19	11	
4	松本	17p	+6	15	9	A●
5	福岡	15p	0	14	14	H●
6	京都	14p	+5	13	8	
7	栃木	14p	+4	11	7	H●
8	水戸	14p	+2	8	6	
9	札幌	14p	+1	8	7	
10	熊本	14p	0	12	12	
11	大分	14p	-2	9	11	
12	北九州	13p	-1	11	12	
13	山形	12p	+2	11	9	A●
14	千葉	12p	-4	10	14	
15	岡山	11p	-3	6	9	
16	愛媛	10p	0	8	8	AΔ
17	岐阜	10p	-1	12	13	---
18	横浜FC	9p	-3	8	11	AO
19	群馬	9p	-6	6	12	
20	東京V	5p	-7	8	15	
21	富山	2p	-17	3	20	HO
22	讃岐	2p	-16	6	22	HO

次回HomeGame

第12節 ジェフ千葉戦

5/6(火・祝) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..

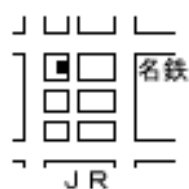
心の花が咲く..

何も無い店だけど...

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@
hotmail.co.jp

【第8節】岐阜 1-3 栃木

●しっかりウチをスカウティングされてしまってるかな。で、ウィークポイントを突かれての失点……。3点目の直後、お客さんが帰路につき始めたのがすごく気になった。一緒に見てたサポ仲間曰く、『特需は終わった』とも。観客動員も徐々に減りつつある。失点の多さも気になる。

次、松本戦、ここいらが正念場。アルウィンの松本サポを沈黙させよう。(岐阜の誇り)

●ホーム3連敗。キックオフからの入りは悪くなかったんだけど、いつのまにか栃木にいなされ、あっさり失点。前半終了近くに野垣内のクロスとシュートでチャンスは作ったけれども一点ビハインドのまま後半へ。現地で見えた感想としては、ナザリト、智大両FWへなかなかボールが収まらず押し上げがでできなかったこと、何より両FWの関係が曖昧なままで機能していなかったのが苦戦の要因に見えた。

そしたら、前半でスバツと智大から難波へチェンジ。この采配は素晴らしかった。難波が入ってからボールが前で繋がるようになったし、彼の前線からのチェイスが効いて栃木の繋ぎに混乱を生じさせたように思う。それだけに、早めの得点が欲しかったのだが、逆に突き放される羽目になったのはホントもったいないというか、あの一瞬は軽かったというか……。

その後にナザリトの追撃弾が決まったり、難波の惜しいシュートもあったりで少なくとも引き分けにできそうな流れが来ていただけに、全員が少し前掛かりになりすぎて一瞬の際を突かれたという感じがする。それにしても、決められたのが近藤、瀬沼、そして湯澤か。ここまでの栃木の試合から「清水からレンタルのこイツ、ちょっとメンドクサイかも?」と思っていたのが瀬沼。体つきからはそう見えなくても、ポストも出来てたし、ポジション取りも抜け目がない。ゴールシーンはまさにそれ。近藤は以前から「ラグビーかアメフトやってる方が似合うんじゃないか?」という体格に似あわずスピードもあるし、CKも蹴っちゃうという器用さもある。そして、この試合での発見というか「うわ、やなヤツだな、こイツ。」と思わされたのが湯澤。ずいぶんとサイドを抜かれてしまったように見えたが、どうだろう?彼は栃木出身で高校時代からそれと知られた存在だったとか。タクミやジュンキには彼以上の活躍を期待したいもんだ。正直、個人的には栃木を持ち上げたくはないんだけど(苦笑)、ウチと似たような理由でブラジルトリオなどの大駒が退団してじんまりとなるのかな、と思ったが、新監督がうまくチームを作ってきてるんだな。そこは、やはりヘッドコーチとして見てきた実績があるからかもしれない。その点では、共に新監督を迎えたクラブではあるけれど、いささかスタート地点に差があったとも言える。今回は悔しい結果だったが次回のアウェイではキツチリとお返しをしてやりたい。

こんな書き方だとそこそこ満足してるような感じがするかもしれないが、ホントは少々ガッカリしてる。この内容では拍手はできないし、実際しなかった。冒頭にも書いた通りホーム3連敗はいただけない。たしかにどこで勝っても、どこに勝っても勝ち点3は変わらない。それでも、ホームでの勝ちにはこだわってほしい。せつかく、イイ流れが来ていて肌寒い天候の中5千人を超えるお客さんが集まってくれたのだから「勝ってウレシイ!。また、来ようか。」という状況を作りたい。

ただ、今季の長良川では全試合で得点できている。それだけは救いだ。次節以降厳しい日程が続くが、なんとしてでも勝利をつかんでほしい。ボクも監督が言ってたようなサポーターになれるよう全力を尽くします!(ぐん、)

●勝ち越しを懸けたホーム戦。勝ち点差も僅かな対戦相手。ホームでは2連敗中。だから今節の栃木にはどうしても勝たなかったんだけどなあ…(溜息)。選手たちの調子や試合内容はそんなに悪くないんだけど、どうもチームとしてしっくりしていないように感じられる。あるいは対戦相手にしっかり研究されてしまっている、そう感じてしまった。

もうどのチームも#9ナザリト対策でマークは厳しくするのは判ってるんだから、もっと周りの選手が彼を利用して自分のマークを外す動き、あるいはナザリトが競ってこぼれたセカンドボールを狙うプレーを多用してほしいかなあ。もちろん、その厳しい相手のマークすら振り払って、ナザリトにはゴールを叩き込んで欲しいんだけどね(笑)。

あと、流れが悪くなかったからだとは思うんだけど、どうも思い切ったシュートを撃つ場面が(特に前半は)少なかったかなあ。「卵が先か…」の議論になっちゃうんだけどさ、シュートを撃つことで良くなる流れもあるし、サッカーは「パスの美しさを競うスポーツ」ではないんだから。常にシュートを選択肢に入れたプレーをしてほしい。

その点では、やはり2試合ぶりの#24難波が投入されるとチームが活性化し、決定機も生まれた。今回は後半からだっただけど、次回からは(本調子になってれば)やはりスタメンで活躍して欲しい選手だね、うん。

しかし、守備でやられちゃいけない相手にやられたのが大きかった…(溜息)。初スタメンのCB#15ヘニキがマッチアップしてた#9瀬沼にドリブルで突進され、流したボールを#32近藤に左足を振り抜かれて1失点目。次は#20湯澤にシュートを撃たれて#22能活が弾いたボールを瀬沼に押し込まれて2失点目。その後、岐阜はナザリトの技ありヘッドで1点差に追いついて、(チームもスタジアムも)勢い付いたんだけど、バテて足が止まってきたところを#20湯澤にミドルを決められて3失点目…(溜息)。今年のFC岐阜はパス主体のサッカーなので、そのパスミスからのカウンターに弱いというか、走り負けてるといふか。気のせいかな、当たり負けも多かったような…。CB#33阿部の欠場も大きかったかもしれないけど、まずは守備の立て直しをしてほしい。

残念な試合結果だったけれど、#36比嘉はJ初出場おめでとう! 2失点してからの後半途中投入だったから、あまりアピールは出来なかったかもしれないけど、悪くない動きだったと思う。これで、セカンドからの昇格組は3人全員ピッチに立ったことになるけど、ここから更に切磋琢磨して、ベンチ定着そしてスタメン定着を図って欲しい。

これで残念ながら、ホーム戦3連敗。でも、ホームでの無得点試合もゼロ。アウェイを入れても愛媛戦だけっていうのが、僕の気持ちを楽にしているのかもしれない。なにせ去年は開幕から7試合未勝利無得点でしたから(苦笑)、これぐらいの成績では全然へこたれませぬ(笑)。これからもしっかり応援するから、チームもしっかり修正して、勢いを取り戻して欲しい。頼むよ!(ささたく)

●実に「気になる」負け方だった。試合前に“要警戒”と思っていた瀬沼と近藤、それに昨年までウチにいた染矢のようにサイドをぶつちぎって行く湯澤にキチンとやられてしまった。気になったのは、この「キチンと」という点。「ウチ(栃木)は、対岐阜のスカウティングは出来てますよ」ではなく「対岐阜の攻略マニュアルは対戦相手はみんなもう持ってますよ」というような。日本中どこにでもあるファストフードショップに入ればいつでもどこでも安定した味のハンバーガーが食べられるのと同じように、だ。

この試合で比嘉がJデビュー。これで今季『セカンド』から昇格した3人の選手は全員出場したことになるが、遠藤と比嘉には可能性を感じた。智大には、もう1枚“剥けて”ほしいところ。(吉田铸造)

【第9節】松本 1-0 岐阜

●試合全体の内容では岐阜のほうが良かった。ボールも繋がっていた、シュートもそこそこ打っていた。しかしながら岩上のFK一発に沈められてしまった…。あのFKは敵ながらあっぱれと言わざるを得ないシュート。あそこに蹴られては、どんなキーパーでも防ぐのはむづかしかったであろう。タイミングを外すような蹴り方をしてきたので、能活も自分の間合いで守れなかったという面もあったかもしれないが。

あと、ナザリトはしっかり犬飼や飯田にマークされて空中戦でもかなり負けていた印象。かなり他チームにウチに対する守り方を研修されているところはあるようなので、少し攻撃に変化を付けたいところ。ケガで前半で退いた木谷の様子も気になる。

次戦はおそらく厳しいと思われるので、後半から入った関田や中村英の奮闘に期待したいところ。中2日ですぐ次の試合、11日間で4試合というGWおなじみのハードな日程ではあるが、疲労を少しずつでも回復しつつ切り替えて臨んでもらいたい。3連敗はなんとしても阻止しなければ！

(岐阜の誇り)

●天気は絶好。一万三千人を超える観衆。しかも、松本は今季ホーム未勝利……と何か昨季をほうふつとさせるシチュエーション。再び、アルウィンでの歓喜の咆哮を期待していたのだが……。逆にこちらが今季初の零封負け。スコアレスは愛媛戦に続いて2試合目だけど、率直に言うところの結果は妥当かな、と。

シュート数は公式によると13対12。ウチの方が多かったし、後半だけでもヘニキ、圭輔、そして純輝と惜しいシュートはそこそこあったものの、いずれもミドルレンジあるいはペナルティエリア外からのモノ。あ、終盤の比嘉のシュートはもうちょっと強く打っていたら……だったが、結局ゴール前で繋いでの決定機という場面はなかった。そういう展開から考えると、スコアレスドロウにはできたけど、勝ちきる印象はなかったかな？ 零封負けという結果については特に気にはならない。長いシーズンに何回かはあることだ。逆にここまでの全9試合中7試合も得点できていることがスゴイ。ただ、今日の内容から言えるのは、ゴール前あたりやサイド深くには持ち込めるけど、その後のアイデアが不足していたように思う。当然、どのチームのナザリトへはきっちり対策を練ってきているので、彼をどう使うか、このストロングポイントはどう生かすのか。もっと、工夫が必要だし、普段の練習から連携を深めていってほしい。守備面ではこの試合はうまくやっていたように見えた。ヘニキはしっかり効いていたし、その分宮沢も地味ながらちゃんとフォローが出来ていたように見えた。でも、木谷のケガは心配だ。ここまで全試合フル出場。最終ラインを統率してくれていただけに、軽傷であることを切に願う。それでも、今季初出場だった関田の出来は悪くなかった。戦術的交代によって途中から左SBに移ったけど、やはり彼は真ん中で見たい選手。木谷の状態もあるが、もともとGWの連戦でコンディショニング的に厳しい時期。スタメンで活躍してくれるのを期待している。それに、そろそろ彼のゴールが見たいな。そして、決めた後のドヤ顔も(笑)それから、純輝は初スタメンおめでとう。あのシュートが決まれば言うことはなかった。でも、90分フルにやれたことは自信になったと思う。まだ、チャンスはあるはず。次に期待しているよ！

アルウィンのアウェイ・エリアは狭かったけど、たくさんの岐阜サポで埋まっていた。松本サポの声にも負けてなかったと言ったら言い過ぎかな？ 録画でビッグ・フラッグを確認したけど、カッコイイよね。アレ。

(ぐん)

●いやー、岐阜よりも松本の方が高地のハズなんだけど、(だからこそ?) 暑かった! 気温は20.9度とそれほど高くなく日陰は涼しかったんだけど、陽射しがホント強かった。これは選手たちも厳しいな…と想ったけれど、昨年もそんな状況、しかも強風の過酷な環境の中でリーグ初勝利・逆転勝利を挙げたんだ…と、気持ちを引き締めてのアルウィン参戦だったんだけど。

うーん…#8 岩上祐三のFKひと振りにやられてしまった、と言うしかないかも。#10 船山貴之がボールをセットして離れた直後に走り込んでタイミングを外し、しかもゴール左上隅に(敵ながら見事な)鋭い弾道のキック。#22 GK 能活も反応できなかったのは、やむを得ないかなあ(溜息)。

試合内容は悪くなかったと思う。あの失点シーン以外は、(ちょっとヤバい場面はあったけど)粘り強く守っていたし、最後まで走っていた。#35 木谷が負傷して#5 関田に交替したので大丈夫かな? と心配したけど、しっかり守っていた。ボランチに入った#15 ヘニキもよかったと思う。関田は失点後は左SBに入っていたし、いわゆるポリバレンタ(複数ポジションをこなせる)選手が負傷から戻って調子を上げてきたのは大きな収穫だと思う。

ただ、相手を上回る13本のシュートを撃ったけれど、最後の精度や思い切りが足りなかったかな、とは思う。連敗してる状況だから慎重になってしまう気持ちは分かるけど、だからこそ大胆にゴールを狙う姿勢が欲しかった。あと1本パスが通れば、セカンドボールを拾えたら、ゴールできたかも…と感じた勿体ないシーンもあった。無得点に終わった攻撃陣には、次節のホーム戦ではもっと思い切りの良いプレーを、そしてゴールを見せて欲しい。

残念ながら、今年は13,657人の(うち500人ぐらいは岐阜サポだったかな?) アルウィンを黙らせることはできなかった。松本は今期ホーム初勝利、しかも昨年の敗戦の記憶で相当に気合いが入っていたようだ。試合前には恩田新社長も僕らの所に挨拶に来られたけど、この雰囲気を上回る素晴らしいスタジアムに僕らの長良川もなれるよう、みんなで積み上げていきたいものです。

(ささたく)

【セカンド】 岐阜県予選で敗退……

●昨年は天皇杯出場、全国社会人大会で3位、そして“岐阜県”チームとして出場した国体・男子成年の部で優勝と最高のシーズンだったFC岐阜セカンド(以下『セカンド』)ですが、現在行われている今季の「天皇杯」「全国社会人大会」の岐阜県予選、4/20に行われました準々決勝・ジョカトーレクラシック戦は1-1からPK戦の末に敗れました。

この県予選・準々決勝での敗退により、残念ながら2008年から6年連続で出場していた『セカンド』の天皇杯全国大会への出場はなくなり、同時に9月～10月に和歌山県で開催される全国社会人大会への出場もなくなりました。今後は5月に開幕の東海リーグ1部での戦いとなります(今季「長崎国体」については、昨年同様に『セカンド』が“岐阜県”チームとして予選出場になるのかはわかりません)。

(吉田铸造)

【コラム】 薫田大二郎社長の退任に想う。

●4/24 (木)、F C 岐阜を運営する (株) 岐阜フットボールクラブの株主総会および取締役会が開催され、薫田大二郎代表取締役社長は退任して取締役会長となり、後任の代表取締役社長には恩田聖敬(おんだ・さとし)氏が就任した。僕としては、F C 岐阜というクラブの“ひとつの時代”が終わった(変わった)のだと、非常に感慨深く感じている。

薫田社長は、前任の(“日本初のGM”、“サンフレッチェをつくった男”そして“日本代表W杯初出場の功労者”などとも評される)今西和男氏から引き継ぎ、2012年9月1日に社長に就任された。岐阜県庁職員(つまり公務員)出身で、岐阜県事業経営局長や岐阜市助役、岐阜県土地開発公社理事長や岐阜県道路公社理事長などを歴任した、いわゆる「行政畑の人」だ。振り返ってみれば、Jリーグ昇格を目指すようになってからのF C 岐阜というクラブは、常に緊張の連続の歴史を歩んできていたと僕は思う。Jリーグに昇格するまでは、その昇格争いで常にギリギリの状況(古くからの岐阜サポ諸兄は覚えておられるだろうが、東海L1部昇格時の“口論議の奇跡”、JFL昇格時の地域決勝、そしてJFL時代には、準加盟申請問題や成績面での“地獄と天国の1週間”など)を切り抜けてきた。そして2008年のJリーグ昇格後は(それまでのツケとして)債務超過の解消(スポンサー不足による)資金繰りにずっと苦しみ、近年は「2014年度末までに債務超過を解消しないとクラブライセンス剥奪(=Jリーグ強制退会)」という制度に苦しみ、そしてJ2でも始まった降格制度……降格チーム(2012年は町田、2013年は鳥取)の直上は2年ともF C 岐阜で、かろうじて降格を免れたという状況だった。(敢えて言うけれど)チームがJ2から降格するだけなら、まだいい。しかし、その降格(あるいはクラブライセンスの剥奪)で資金繰りが悪化して、愛するF C 岐阜というチームが消滅するかもしれない…その目に見えない恐怖が、僕にはJ昇格からずっと付きまとっていたことを(恥ずかしながら)白状しなくてはならない。しかし、今年はその恐怖から解放されている。「クラブが消滅するかもしれない」という恐怖、(今年ならば東京Vや群馬などのサポーターが感じていると思うが)それが無い安堵感。純粹に(正確には、まだ様々な問題はあって思っているのだけれど(苦笑))「チームの勝ち負け」を一喜一憂できる状況。J昇格7年目にしてやっと「スタートラインに立った」と言えるかもしれない。そんな状況の今を、本当に感謝している。

今西さんは、F C 岐阜をJリーグ昇格に導いてくれた「クラブの功労者」の1人であることは間違いないと思う。しかし一方で、(広島出身で岐阜に地縁もない)今西さんは、行政や地元企業からの協力・支援体制を取り付けること、そして(元々は今西さんの責任ではないのだけれど)債務超過の解消といった経営面には不得手だったと思う。今西さんが経営責任を問われ、引責辞任した後を引き継いだ薫田さんは「行政畑の人」、しかも県内企業ともパイプのある人だった。今西さんが常々言っていた「社長には地元の行政や企業にパイプのある人がふさわしい」、そういう人だった。

それから1年半。F C 岐阜は、2012年のクリスマスには(株)Jトラスト・藤澤信義社長の支援を受けることができた。

2013年シーズンにはJ初の西濃(大垣浅中)開催を成功させて西濃財界の支援を受け、岐阜国体のマスコット・ミナモを期限付き移籍で獲得した。2014年シーズン前には、(株)Jトラストおよび岐阜県財界の支援を取り付け、1億3000万とも言われる債務超過の解消そしてラモス瑠偉監督の招聘、川口能活選手を始めとする大型補強をして今に至っていることは、岐阜サポ周知の事実だ。

もちろん、「Jトラストの支援があったのは偶然で、薫田社長

の功績ではない」「古田県知事の命令で社長に就任しただけじゃないか」というような批判的な意見があるのも僕は知っている。しかし、僕は薫田さんが「火中の栗を拾う」ことを、「傾きかけたサッカークラブの経営責任を負う」ことを(臨んでか臨まざるかは知らないが(笑))してくれなかったら、こういった結果にはなっていなかったということ、今一度強調しておきたいと思う。藤澤社長や岐阜県財界の支援には心から感謝しているけれど、そういった運も含めて「その人の才能」、薫田さんの才能だと僕は思うのだ。それに、薫田さんは(引き受けたからには)F C 岐阜に非常に熱心だったと思う。ホーム戦で見かけなかったことはないし、アウェイにも(おそらく)常に足を運び、サッカーやクラブ経営の知識を深めようとされていた。何度か言葉を交わす機会をいただいたが、常に暖かく優しい表情・口調だった。その人柄が今の状況を呼び寄せたのではないかと、僕は思っている。

さて、次期社長となる恩田聖敬氏は35歳と、非常に若い方だ。地元・山県市出身で、岐阜北高校→京都大を経て、Jトラストのグループ会社でゲームセンターなどを運営する「アドアーズ」の常務として会社を再建させた経験もある方で、藤澤社長曰く「古田知事や薫田社長には、彼がもしダメなら『すぐに解任しましょう』って言ってあります。そのくらいの覚悟で、岐阜のために頑張ってほしい。Jトラストから転籍し、「片道切符」で行ってもらいます」とのことだ。また社長就任の挨拶を拝見すると、謙虚だけれどFC岐阜への熱い想いをとても感じた。是非とも、その地縁・能力そして熱意を活かして、更なるクラブや地域の発展のために尽力していただきたいと思う。どうぞよろしくお願いします。よく、会社経営では「三代目が大事」と聞く。(本当はJ昇格前にも社長がいるので違うのだけれど)“偉大なる初代”今西さん、“継承の二代目”薫田さん、“発展の三代目”恩田さん…と続くことを、心から願っている。くれぐれも「長者三代」にはなって欲しくない(苦笑)。ともあれ、この「誰も引き受けなかったかもしれないミッション」を見事に達成した薫田さんには、僕は感謝の念しかない。僕らのクラブを(危険な状況だったにも関わらず)引き受けてくださり、本当に、ありがとうございました。そして、本当にお疲れ様でした。今後とも会長としてご尽力いただきたいですが、肩の荷を降ろして、ちょっとは気楽にF C 岐阜のサッカーを楽しんでいただければと思います。(ささたく)

【ユース】『クラブユース』東海予選が始まりました

●我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は4月20日に日本クラブユースサッカー選手権の東海地区1次リーグの試合が有りました。対戦相手はFC ERDE。昨年の同大会では19対0で大勝した相手です。この試合は観戦出来ませんでしたが、現地参戦した方の情報では相手はKO時にも10名しか揃っていないような状態だったらしく、今年も25対0で大勝できました。しっかり勝てた事は良かったですし、0点に押える事が出来たのが何よりだったと思います。

クラブユース1次予選では4/27(日)に名古屋商科大学で尾張クラブ戦があった筈ですが、こちらの結果は岐大通の締切関係で今日お伝えする事が出来ません。吉報が届いている事を祈っています。

次の公式戦は5月6日(火・祝)にG1リーグ第2節大垣工業高校戦です。試合会場は関市中池グリーンフィールド、KOは12時半です。この日はトップチームはナイターなんで良ければ観戦に行ってください(私は別用が有る為に行けません。涙)頑張れよ、応援しているからな!FORZA!FC岐阜ユース!!(シュナ)

※試合会場・時間は変更の可能性があります。岐阜県サッカー協会の公式サイトでご確認下さい。